

令和3年度 世界史Aシラバス

単位数:2

対象:1年 普通コース、特進コース

使用教科書:帝国書院

月	単元名(時数)	学習の目標(ねらい)および内容	評価の観点				評価規準	評価方法						
			関心意欲	思考判断	技能	知識理解		態度	ノート	発表	提出物	定期考査	小テスト	
4月	世界史へのいざない	2 自然環境と歴史、日本の歴史と世界の歴史のつながりにかかわる適切な主題を設定し、考察することで地理と歴史への関心を高め、世界史学習の意義に気づかせる。	◎	○	◎	△	【関】歴史の舞台としての自然環境や日本列島の中にみられる世界との関係・交流について関心を高め、意欲的に追究している。 【思】自然環境と歴史、日本史と世界史のつながりについて考察し、判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】地図や写真を読み取る活動、年表や地図に表現するなど、世界中学習の基本的技能を身に付けている。	2	2	2	3	1		
	1部 世界の一体化と日本 1章 前近代の諸文明 序節 人類の始まり	人類の登場と、農耕・牧畜による食料生産を基礎にして、人類が文明を築き、歴史時代へはいついかにありさまを地域ごとに概観し、各地域世界が形づくられていく過程を理解する。	◎	○	△	○	【関】人類の発生・進化の過程や農耕・牧畜による食料生産革命、文明の成立などについて関心を高め、意欲的に追究するとともに、人類史について考えようとしている。 【思】人類の登場、食料生産革命、文明の成立などについて考察し、判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】人類の登場、食料生産革命、文明の成立などに関する資料を収集し、適切に活用する技能を身に付けている。	2	2			6		
	1節 東アジアの文明	3 東アジアの風土と諸民族、封建制度、漢字文化圏、儒教思想、律令体制、文治主義、冊封体制などを通して、日本を含む東アジアの文明の特質を理解する。	◎	○	△	◎	【関】東アジアの風土・生活・言語・思想などについて関心を高め、意欲的に追究するとともに、東アジアの特質について考えようとしている。 【思】東アジアの風土・生活・言語・思想などについて考察し、判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】東アジアの風土・生活・言語・思想などに関する資料を収集し、適切に活用する技能を身に付けている。	2	2			5	1	
5月	2節 南アジアの文明	1 南アジアの風土と諸民族、カースト制、仏教、ヒンドゥー教、イスラームの影響などを通して、南アジアの文明の特質を理解する。	◎	○	△	◎	【関】南アジアが、宗教と社会制度を共通の基盤として一つの社会が形づくられたことについて関心を高め、意欲的に追究するとともに、南アジアの特質について考えようとしている。 【思】南アジアが宗教と社会制度を共通の基盤として一つの社会が形づくられたことについて考察し、判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】南アジアが、宗教と社会制度を共通の基盤として一つの文明を形成したことに関する資料を収集し、適切に活用する技能を身に付けている。	2	2			5	1	
	3節 東南アジアの文明	自然環境や地理的位置に着目し、インドと中国のはざまにあるため、両文明の影響を受けながら、それぞれの地域で多様な社会・文化を築いていった東南アジアの特質を理解する。	◎	○	△	◎	【関】東南アジアの風土・生活・文化などについて関心を高め、意欲的に追究するとともに、東南アジア世界の特質について考えようとしている。 【思】東南アジアが独自の文化を生み出したことについて考察し、判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】東南アジアに関する資料を収集し、適切に活用する技能を身に付けている。	2	2			6		
	4節 西アジア・北アフリカの文明	5 西アジア・北アフリカの風土と諸民族、オリエント文明・イラン文明の伝統にふれ、基層となる西アジアの特徴を把握し、イスラームの成立と拡大・分裂などを通して、西アジア・北アフリカの文明の特質を理解する。	◎	○	△	◎	【関】西アジア・北アフリカが、さまざまな遊牧民、農耕民、交易民により形成され、拡大したことについて関心を高め、意欲的に追究するとともに、西アジア・北アフリカの特質について考えようとしている。 【思】西アジア・北アフリカが、さまざまな遊牧民、農耕民、交易民により形成され、拡大したことについて考察し、判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】西アジア・北アフリカが、さまざまな遊牧民、農耕民、交易民により形成され、拡大した	2	2			5	1	
	5節 ヨーロッパの文明	ヨーロッパの風土と諸民族、ギリシア・ローマ文明の伝統、キリスト教の発展、封建社会などを通して、ヨーロッパの文明の特質を理解する。	◎	○	△	◎	【関】ヨーロッパの風土・生活・文化などについて関心を高め、意欲的に追究するとともに、ギリシア・ローマ文明の伝統とキリスト教によって一つの文明を形成したヨーロッパの特質について考えようとしている。 【思】ギリシア・ローマ文明の伝統とキリスト教によって一つの文明を形成したヨーロッパについて考察し、判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】ギリシア・ローマ文明の伝統とキリスト教に	2	2			5	1	

月	単元名(時数)	学習の目標(ねらい)および内容	評価の観点				評価規準	評価方法					
			関心意欲	思考判断	技能	知識理解		態度	ノート	発表	提出物	定期考査	小テスト
	6節 南北アメリカの文明	1 南北アメリカ大陸の風土と先住民にふれ、ヨーロッパが進出する以前の南北アメリカ大陸において独自の文化が築かれていたことを理解する。	◎	○	△	◎	【関】南北アメリカの大陸の風土と先住民、独自の文明に対する関心を高め、意欲的に追究するとともに、南北アメリカの文明の特質について考えようとしている。 【思】南北アメリカの文明の特質を考察し、判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】南北アメリカの文明の特質に関する資料を収集し、適切に活用する技能を身につけている。	2	2			6	
	7節 ユーラシアの交流圏	ユーラシアの内陸及び海城のネットワークを背景に、諸地域間の交流が進み、ユーラシア規模の交流圏が成立していくようすを交易品などの事例を通して巨視的かつ視覚的に把握し、相互の文化受容の進展について理解する。	◎	○	△	◎	【関】ユーラシア規模の交流圏の成立とそれを支えた内陸および海城(都市や港市)のネットワークに対する関心を高め、意欲的に追究し、考えようとしている。 【思】ユーラシア規模の交流圏の成立とそれを支えた内陸および海城(都市や港市)のネットワークについて考察し、判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】ユーラシア規模の交流圏の成立とそれを支えた内陸および海城(都市や港市)のネットワークに関する資料を収集し、適切に活用する技能を身につけている。	2		2	2	4	
6月	2章 一体化に向かう世界 1節 繁栄するアジア	7 アジアのティムール・オスマン・ムガル・明・清などの諸帝国の政治と社会にふれ、この時期に安定した支配と経済の繁栄を背景に、文化も黄金時代を迎えたことを理解する。	◎	○	△	◎	【関】成熟期を迎えたアジアの諸帝国に対する関心を高め、意欲的に追究し、その特色について考えようとしている。 【思】成熟期を迎えたアジアの諸帝国の特色について考察し、判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】成熟期を迎えたアジアの諸帝国の特色に関する資料を収集し、適切に活用する技能を身につけている。	2	2			5	1
7月	2節 大航海時代と新国家の形成	6 ルネサンスと宗教改革、新航路の開拓などにふれ、16世紀頃から始まった世界の一体化への動きと新たなヨーロッパのわく組みとなった主権国家体制の形成について理解する。	◎	○	△	◎	【関】16～18世紀にかけてのヨーロッパ世界の動向、社会・文化の特質、アメリカ・アフリカに対する関心を高め、意欲的に追究し、考察しようとしている。 【思】16～18世紀にかけてのヨーロッパ世界の動向、社会・文化の特質、アメリカ・アフリカとの関係について考察し、判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】16～18世紀にかけてのヨーロッパ世界の動向、社会・文化の特質、アメリカ・アフリカとの関係に関する資料を収集し、適切に活用する技能を身につけている。	2	2			5	1
8月	課題学習(2部2章4節「持続可能な社会をめざして」「課題学習」を先取りしてもよい)	三つの事例を通して“共に生きる世界”について考察する。あるいは、自ら主題を見つけ、自ら調べて、レポートにまとめて報告・発表する。	◎	◎	◎	○	【関】主題を追究することで、歴史への関心と世界史学習への意欲をもとうとしている。 【思】適切な主題を設定し、考察し、判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】資料を用いて追究した過程や結果について、報告書にまとめ、発表や討論をする。 【知】適切な主題に関連した歴史について理解	2		5	2	1	
9月	3章 欧米の工業化とアジア諸国の動揺 1節 ヨーロッパとアメリカの諸革命	7 アメリカ諸国の独立、フランス革命、産業革命、拡大する貿易活動などを通して、西ヨーロッパとアメリカに産業社会が成立し、市民社会および国民国家の形成が進行したことを理解する。	◎	○	△	◎	【関】18世紀後半から19世紀にかけてのヨーロッパとアメリカの諸革命に対する関心を高め、意欲的に追究し、社会の産業化と国民国家の形成により近代世界が確立したことについて考えようとしている。 【思】18世紀後半から19世紀にかけてのヨーロッパとアメリカの諸革命を考察し、社会の産業化と国民国家の形成により近代世界が確立したことを判断して、一連の思考の過程を適切に表現している。 【技】18世紀後半から19世紀にかけてのヨーロッパとアメリカの諸革命に関する資料を収集	2	2			5	1
10月	2節 自由主義・ナショナリズムの進展	7 19世紀後半のヨーロッパ、アメリカ社会を通して、自由主義とナショナリズムが進展していくようすとアメリカの発展について理解する。	◎	○	△	◎	【関】1848年を転換点として、自由主義とナショナリズムが進展したことに対する関心を高め、意欲的に追究し、考えようとしている。 【思】1848年を転換点として、自由主義とナショナリズムが進展したことについて考察し、判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】1848年を転換点として、自由主義とナショナリズムが進展したことに関する資料を収集し、適切に活用する技能を身につけている。	2	2			5	1

月	単元名(時数)	学習の目標(ねらい)および内容	評価の観点				評価規準	評価方法						
			関心意欲	思考判断	技能	知識理解		態度	ノート	発表	提出物	定期考査	小テスト	
11月	3節 アジア諸国の動揺	3	オスマン帝国の弱体化やムガル帝国の崩壊などを通して、世界市場の形成を背景にしたヨーロッパ諸国のアジア進出とアジア諸国の状況、植民地化や従属化の過程での抵抗と挫折、伝統文化の変容など、アジア諸国の動揺のようすを理解する。	◎	○	△	◎	【関】アジア諸国の内部で進行していた変化と、ヨーロッパの進出によって引き起こされた変貌に対する関心を高め、意欲的に追究するとともに、その特質について考えようとしている。 【思】アジア諸国の内部で進行していた変化と、ヨーロッパの進出によって引き起こされた変貌について考察し、判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】アジア諸国の内部で進行していた変化と、ヨーロッパの進出によって引き起こされた変貌に関する資料を収集し、適切に活用する技能を身につけている。	2	2			5	1
	4節 東アジアの大変動	4	アヘン戦争やアロー戦争などの西洋の衝撃により、冊封＝朝貢体制に基づく東アジアの伝統的な国際秩序が崩壊していく過程を通して、ヨーロッパ諸国の東アジア進出と東アジア諸国の状況、半植民地化や従属化の過程での抵抗と挫折、その中で日本の対応など、東アジア諸国の動揺のようすを理解する。	◎	○	△	◎	【関】東アジア諸国の内部で進行していた変化と、ヨーロッパの進出によって引き起こされた変貌に対する関心を高め、意欲的に追究するとともに、その特質について考えようとしている。 【思】東アジア諸国の内部で進行していた変化と、ヨーロッパの進出によって引き起こされた変貌を考察し、判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】東アジア諸国の内部で進行していた変化と、ヨーロッパの進出によって引き起こされた変貌に関する資料を収集し、適切に活用する技能を身につけている。	2	2			5	1
12月	2部 地球社会と日本 1章 現代世界の芽生えと 世界大戦 1節 現在につながる社会の形成	2	交通革命、マス＝メディアの発達、企業や国家の巨大化、社会の大衆化と政治や文化の変容、公教育の普及と国民統合などを通して、20世紀という時代の特質を把握するとともに、欧米諸国によるアジア・アフリカの植民地化をめぐる競争と人口移動から、世界の支配・従属関係を伴う一体化と社会の変容を理解する。	◎	○	△	◎	【関】19世紀末から20世紀初頭にかけて、欧米諸国や日本などにみられた社会の急激な変化と19世紀の世界の一体化に対する関心を高め、意欲的に追究するとともに、その特質を人類史的視野から考えようとしている。 【思】19世紀末から20世紀初頭にかけて、欧米諸国や日本などにみられた社会の急激な変化と19世紀の世界の一体化について考察し、判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】19世紀末から20世紀初頭にかけて、欧米諸国や日本などにみられた社会の急激な変化と19世紀の世界の一体化に関する資料を収集し、適切に活用する技能を身につけている。 【知】産業構造の変化や大量消費社会・大衆社会の萌芽など、20世紀という時代の特質を考察する。	2	2			5	1
	2節 第一次世界大戦がもたらしたものの	4	第一次世界大戦と総力戦としての様相、ロシア革命、ソヴィエト連邦の成立、戦争と革命による国際秩序の変化、アメリカの大衆生活とその波及を通して、20世紀初頭の変化の様相を理解する。	◎	○	△	◎	【関】第一次世界大戦の原因と性格、平和の意義などに対する関心を高め、意欲的に追究するとともに、20世紀初頭の変化の様相について考えようとしている。 【思】第一次世界大戦の原因と性格、平和の意義について考察し、20世紀初頭の変化の様相について考察し、一連の思考の過程を適切に表現している。 【技】第一次世界大戦の原因と性格、平和の意義と20世紀初頭の変化の様相に関する資料を収集し、適切に活用する技能を身につけている。	2	2			5	1
1月	3節 “民族自決”を求めて	2	インド・中東および東アジアの民族運動を通して、“民族自決”を求めたアジアのナショナリズムの動きを理解する。	◎	○	△	◎	【関】インド・中東および東アジアの民族運動に対する関心を高め、意欲的に追究するとともに、“民族自決”を求めたアジアのナショナリズムの動きについて考えようとしている。 【思】インド・中東および東アジアの民族運動について考察し、“民族自決”を求めたアジアのナショナリズムの動きについて考察し、一連の思考の過程を適切に表現している。 【技】インド・中東および東アジアの民族運動と“民族自決”を求めたアジアのナショナリズムの動きに関する資料を収集し、適切に活用する技能を身につけている。	2	2			5	1
	4節 経済危機から第二次世界大戦へ	5	第二次世界大戦の原因や総力戦としての性格、それらが及ぼした影響を理解し、平和の意義などについて考察する。2部1章2節とあわせて20世紀前半の国際政治の流れを概観し、国際関係の変遷と社会の特質を理解する。	◎	○	△	◎	【関】世界恐慌と資本主義の変容、20世紀前半の国際政治の流れ、第二次世界大戦の原因や性格などに対する関心を高め、意欲的に追究するとともに、現代の戦争の特質と平和の意義について考え、国際社会に生きる日本人としての自覚をもとうとしている。 【思】世界恐慌と資本主義の変容、20世紀前半の国際政治の流れ、第二次世界大戦の原因や性格、現代の戦争の特質と平和の意義などについて考察し、判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】世界恐慌と資本主義の変容、20世紀前半の国際政治の流れ、第二次世界大戦の原因や性格、現代の戦争の特質と平和の意義など	2	2			5	1

月	単元名(時数)	学習の目標(ねらい)および内容	評価の観点				評価規準	評価方法					
			関心意欲	思考判断	技能	知識理解		態度	ノート	発表	提出物	定期考本	小テスト
2月	2章 冷戦から地球社会へ 1節 冷たい戦争の時代	4 第二次世界大戦後の米ソ両陣営の対立、アジア・アフリカの民族運動と植民地支配からの独立を理解し、核兵器問題やアジア・アフリカ諸国が抱える問題などについて考察する。	◎	○	△	◎	【関】第二次世界大戦後の米ソを中心とする両陣営間の対立や、アジア・アフリカ諸地域でみられた民族独立運動の展開、平和共存と多極化の進展などを通して、1970年頃までの世界の大きな動向について関心を高め、意欲的に追究し、考え、国際社会に生きる日本人としての自覚をもととしている。 【思】第二次世界大戦後の米ソを中心とする両陣営間の対立や、アジア・アフリカ諸地域でみられた民族独立運動の展開、平和共存と多極化の進展などを通して、1970年頃までの世界の大きな動向について考察し、判断した過程や結果について適切に表現している。 【技】第二次世界大戦後の米ソを中心とする両陣営間の対立や、アジア・アフリカ諸地域でみられた民族独立運動の展開、平和共存と多極	2	2		1	5	
	2節 冷戦終結への道のり	2 1970年代以降は市場経済の世界化をはじめ、米ソのゆらぎや冷戦の終結などから、世界が大きく変容し、今日に至っていることを理解する。	◎	○	△	◎	【関】市場経済の世界化、米ソのゆらぎや冷戦の終結などから、1970年代以降の世界の大きな変容に対する関心を高め、意欲的に追究し、考え、国際社会に生きる日本人としての自覚をもととしている。 【思】市場経済の世界化、米ソのゆらぎや冷戦の終結などから、1970年代以降の世界の大きな変容について考察し、判断した過程や結果について適切に表現している。 【技】市場経済の世界化、米ソのゆらぎや冷戦の終結などから、1970年代以降の世界の大き	2	2		1	5	
3月	3節 地球社会への歩み	3 冷戦終結後の世界の政治・経済の動向について理解するとともに、日本が世界の諸国・諸地域と多様性を認め合いながら共存する方向を模索し、これからの国際社会における日本の役割について考察する。	◎	○	△	◎	【関】冷戦終結後の世界の政治・経済の動向について関心を高め、意欲的に追究するとともに、これからの国際社会における日本の役割、日本が世界の諸国・諸地域と多様性を認め合いながら共存する方向について考え、国際社会に生きる日本人としての自覚をもととしている。 【思】冷戦終結後の世界の政治・経済の動向、これからの国際社会における日本の役割、日本が世界の諸国・諸地域と多様性を認め合いながら共存する方向について考察し、判断した過程や結果について適切に表現している。 【技】冷戦終結後の世界の政治・経済の動向、これからの国際社会における日本の役割、日	2	2		1	5	
	4節 持続可能な社会めざして	1 三つの事例、①フランスから送還されたロマの人々、②よみがえる伝統工芸“ノクシカタ”、③ピョートル大帝の夢と枯渇する大アラル海、を通して、“共に生きる世界”について考察し、その構築に向けての方策を探る。そして、これからの	◎	◎	◎	◎	【関】事例を通して“共に生きる世界”“持続可能な社会”について考察することで、その構築に向けての方策を意欲的に探ろうとしている。 【思】事例を通して“共に生きる世界”“持続可能な社会”について考察し、判断し、その構築について展望をもっている。 【技】“共に生きる世界”“持続可能な社会”に関する資料を用いて追究した過程や結果について、報告書にまとめたり、発表や討論をしたりしている。	2	2	2	2	2	
	課題学習	1 ここまで学習したことをふまえ、現代世界の特徴や課題について、それぞれが興味のあるテーマを見つけて決定し、自ら調べて、レポートにまとめ、報告・発表する。意見交換の場を通して、自	◎	◎	◎	○	【関】主題を追究することで、現代世界の特徴や課題への関心と世界史学習への意欲をもととしている。 【思】適切な主題を設定して考察し、判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】資料を用いて追究した過程や結果について、報告書にまとめ、発表や討論をする。 【知】適切な主題に関連した現代世界の特徴	2		5	2	1	